

(株) Hands Factory
取締役社長

PICK UP

THE PERSON

稲田 淳也

KEY WORD

融合

— yuugou —

かつてハウスメーカーで注文住宅の販売に携わっていた稲田社長。
多くのお客様と接する中で、ある想いが募っていった。
それは、「お客様がどんな生き方がしたいか」を軸に家をつくりたいとの想いだ。
家族の数だけライフスタイルがあり、それに適した家のカタチがある。
想像するのは、新たな住まいで暮らすお客様の笑顔と笑い声。
お客様の希望や夢にじっくりと耳を傾けたら、手を携えて家づくりに取り組む。
お客様らしさに丁寧に寄り添う社長の提案と、お客様のマイホームへの想い——
それが融合した時、新しい「住」のカタチが誕生する。



●対談記事は 10 頁に掲載

「想像するのは笑顔や笑い声——
お客様だけの一軒をつくりたい」

お客様のライフスタイルや趣味嗜好を大切に 自分らしい生き方ができる住まいを提案したい

株式会社 Hands Factory

愛媛県松山市山西町 986-1

URL : <https://hands-factory.co.jp>

リノベーション・リフォーム・解体・インテリアに関する建設事業、不動産コンサルティング関連事業などを手掛ける『Hands Factory』。中でもリノベーションを主軸とし、住まいに新たな機能や価値を付加することで、長く愛着を持って暮らせる家を提案している。本日は、元WBA世界ミドル級チャンピオンの竹原慎二氏が同社を訪問し、稲田社長と寺前CMOにお話を伺った。

――まずは、稲田社長の歩みからお伺いします。建築業界一筋に「ご経験を積んでこられたのでしょうか。」

(稲) 大学卒業後は大手ハウスメーカーに入社し、以降ずっと建築業界です。大手ハウスメーカー二社で合計14年ほど住宅販売に携わり、家を売る上で大切なことを学ぶなど多くの経験を積ませていただきました。二社目では役職を任されたのですが、40歳を目前に控え、「このままで良いのだろうか」と漠然とですが自分に問いかけました。実は、私の父が48歳で他界しており、あと数年で自分もその年齢を迎えるのだなと、自分の生き方を見直した時、何かしないといけないんじゃないかという思いが芽生えたんです。また、長く大手ハウスメーカーで住宅販売に携わる中で、自分がやりたいことが徐々に明確になってきた時期でもありました。

――と、言いますと？

(稲) お客様にとって自由度の高い家づくりをお客様と一緒に取り組みたい――そう考えるようになったんです。ライフスタイルや趣味嗜好にあったデザインを採用入れて、お客様らしい生き方が実現できる家。決められたデザインの中から選ぶのではなく、これからの暮らしや将来設計をお客様と一緒に考えながら家をつくっていきたくて、起業して2018年に『Hands Factory』を設立しました。

――家族の数だけ暮らし方がありますか

――家、家のデザインも多種多様で当然ですね。本日、「ご同席いただいている寺前CMOも、そんな社長に賛同されて一緒に？」

(稲) 大手ハウスメーカーを退職して当社を設立するまでの間に、短期間ですがリノベーションを手掛ける会社に勤めていたんです。寺前とは、そこで出会いました。そちらが倒産の憂き目に遭ったので、一緒にやらないかと声をかけたんです。

(寺) 社長は、年齢や立場の上下関係に関係なく、若い後輩ともフランクに付き合う人。私も前職時代から可愛がってもらい、慕っていたんです。仕事においても対等な関係を築いて下さり、社員の意見に耳を傾け、意見を採用入れて下さいます。経験やノウハウが豊富なことはもちろん、そんな人柄にも魅了されて、一緒に働かせていただくことにしたんです。

――風通しの良い会社なのですね。

(稲) フランクに接するようにして肩の力が抜けたほうが、社員も私に色々と聞きやすいですね。私は自分の知識やノウハウを社員に伝え、またお客様にとって何が最良なのかを大切にするという志を共有し、一緒に事業に取り組める人材を育てていきたいです。

――企業は人なりと言いますから、人材が育てば会社の成長を促すでしょう。設立からまだ1〜2年ですが、いかがですか。

(稲) 皆さんが住まいについてどんなお悩

●ゲストインタビュー
竹原 慎二（元WBA世界ミドル級チャンピオン）

「大手ハウスメーカー時代のエピソードも伺いました。ある時、お客様が稲田社長の勤務先か、別の大手ハウスメーカーか、どちらで家建てるか悩まれていたそう。契約を取るためにお客様に好条件を提示するなど、両者ともに譲らなかったとか。そんな中、『売りたいということではなく、素直な思いを手紙に書いてみる』と上司に言われた社長は、お客様に喜ばれる家を作りたいという思いを書いた手紙を送られました。すると、『稲田さんをお願いしたい』と、ご連絡を下さったのだそうです。『この仕事に携わり続けたいと思った瞬間です』と社長。大切なことは何なのかを理解したことで、真の面白みに気づかれたのですね」





取締役社長

稀田 淳也

愛媛県松山市出身。大学では経営学を専攻し、卒業後は大手ハウスメーカーに入社し、約6年勤務。腰・背中・首のヘルニアを患い、退職して療養する。その後、再び大手ハウスメーカーに入ると、約7年勤務。さらにリノベーション会社で経験を積んで、2018年に独立・起業を果たす。



CMO

寺前 圭祐

みをお持ちなのか、どんな住まいを望まれているのかを寺前が市場調査で調べ、SNSで情報を発信し、反響があれば見学会・展示会などを開催しています。たとえば、水回りリフォームフェアなら、自宅のリフォームやリノベーションを検討されている方、新築を検討していて水回り製品選びにお悩みの方などが興味を持たれますね。

—— 御社は、リフォームやリノベーションを主軸にされているのでしょうか。

（稀） はい。新築も手掛けていますが、中

古住宅のリフォーム・リノベーションがメインです。ただ、この地域では都心に比べてリフォーム・リノベーションが浸透していません。また、リフォームやリノベーションは、該当箇所を丁寧・慎重に解体し、さらに工事を進めながら必要に応じて耐震を補強しなければならないケースもあるため、コストが掛かるんです。新築以上にコストが掛かる理由をご存知ない方が多いのが現状です。

—— それだけ聞くと、新築のほうが需要がありそうですが、御社がリフォーム・リノベーションに力を入られる理由は？

（稀） 四国は空き家率が全国上位に入っており、ここ松山市も空き家率が高いんです。家は、長く住めば古くなるものです。でも、リフォーム・リノベーションによって、物件に新たな機能や価値をプラスし、お客様のライフスタイルに合わせた間取りの変更も可能です。手放してしまうのではなく、

暮らしやすく変えれば住み続けられますよね。空き家は防災面や治安面でも問題が多いので対策が必要なので、空き家になってしまふ家を一軒でも減らせればと、リフォーム・リノベーションをご提案したいんですよ。

—— リノベーションが空き家問題の解決にも一役買うとは、大きな地域貢献です。今後については、いかがですか。

（稀） リノベーションに馴染みのない方もいらっしやると思いますが、当社にはリノベーションについての知識が豊富なスタッフが揃っています。リノベーションについての理解を促す取り組みを進め、フルリノベーションハウス完成見学会も開催していますので、ぜひ一度見に来ていただきたいですね。そうしてリノベーションの物件が一軒でも増えれば、地域でリノベーションに興味を持つ方も増やしていけるでしょう。松山市の住まいづくりに貢献する建築会社として、ナンバーワンを目指します。



が提案する

人生を楽しむための家づくり

▼お客様の「住」に携わる全ての人たちが手と手(Hands)を取り合い造り出す工場(Factory)として、2018年にスタートした『Hands Factory』。お客様のライフスタイルや趣味に合わせた“オンリーワン”の家づくりにこだわり、「人生を楽しむための家」をコンセプトに、既製品ではない新しい「住」のカタチを提案している。例えば、「車好き×ガレージハウス」「バイク×家」「陶芸×家」など。お客様のコアな趣味を楽しめる家づくりをコンセプトに掲げ、各分野の専門家とコラボレーションして、プロ目線の意見を取り入れた家づくりを行っているのだ。たとえば、車好き・バイク好きの方には趣味をじっくり楽しめる「ガレージハウス」を提案。もともとあった倉庫を生かして、「大人の隠れ家」的ガレージへとリノベーションする。愛車のメンテナンスもでき、大切な愛車をしっかり格納できるので防犯面や自然災害などにおいても愛車を守れる。プロ目線から見た意見を家づくりに反映する。「お客様らしい生き方」を実現できる家、それが『Hands Factory』の家だ。



車好き・バイク好き
×
ガレージハウス

“大人の隠れ家”
リノベーションガレージハウス

